互いに個性を認め合い支え合える学級づくり

―道徳授業と学級活動の実践を通して―

教育実践高度化専攻　児童生徒発達支援コース　生徒指導・教育相談系
白井　はるか

本研究は、学級集団の中で良好な人間関係づくりを学び、他者や社会へ主体的に関わることを通して、集団の中で「よりよく生きる力」の育成を目指すための実践である。その手立てとして、道徳授業と学級活動（構成的グループエンカウンター）を組み合わせ、一定のテーマに基づいたパッケージ型ユニットを構成した。テーマは、自分自身に関すること、他者との関わりに関すること、集団に関することという学級集団の発達段階に沿って設定した。児童の変容については、児童の言動の変化や授業の振り返りシート、学級風土尺度を基にしたアンケートから分析・考察を加えた。

その結果、多くの児童が互いに個性を認め合い支え合う様子が見られたが、変容があまり見られない児童もいた。よって、一人一人が安心できる学級を目指すためには継続的な実践とより多くの児童の認識の変容を促すための、思考を刺激し深まりを感じることができる授業づくりの工夫が課題として残った。